

【英語】ジグソーリーディング 授業案

学校名： 埼玉県立庄和高等学校

授業者： 横田 純一

教材作成者： 横田 純一

授業日時	2011年11月28日(月)	教科名	英語 I
学年	1年	生徒数	22名
題材	The Mermaid Balloon	本時/全時数	1/2

授業のねらい
ジグソー法を用いた協調学習の活動を通して、推測や想像をしながら主体的に英文を読み、登場人物の気持ちを想像する力と姿勢の育成を図る。
授業の柱となる課題（ジグソー活動の課題）
絵課題（絵を並べかえる等の課題）への取り組みを通して、読んだ英文の内容を報告しあい、ストーリー全体を把握する。
課題に対して出してほしい答え（課題について子どもたちに語れてほしいストーリー）
情報が欠落してたり理解が不十分であっても、自分の中での推測や想像、あるいは他者の持っている理解や情報を活用することで、物語全体が理解できること。
各エキスパート（答えを出すための部品）
A:(内容)ディジーの父親が亡くなっているという情報が欠落した英文。 (課題)内容の読み取りのための問いに答えたうえで以下の2点に関して推測する。 (1) なぜディジーは郵便ではなくて、風船を使って誕生日カードを送ったのか。 (2) 飛ばした風船はどうなるのか。 B:(内容)ディジーが風船に手紙をつけて送ったという情報が欠落した英文。 (課題)内容の読み取りのための問いに答えたうえで以下の2点に関して推測する。 (1) ディジーはどのようにしてお父さんに誕生日カードを送ったのか。 (2) 誰がディジーに返事を書いたのか、またそうしたのは何故か。 C:(内容)誰が、どうして風船に手紙をつけて送ったという情報が欠落した英文。 (課題)内容の読み取りのための問いに答えたうえで以下の2点に関して推測する。 (1) 誰が誕生日カードを付けたカードを送ったのか。 (2) 何故マキノン氏の奥さんは手紙を書くことにしたのか。
ジグソー活動でわかったことを踏まえて取り組ませたい発展的な課題（なしでも可）
(1) 各場面での登場人物の気持ちを考えさせて、ストーリーに感情を表す語句を入れる課題。 (2) マキノン氏の手紙を読んだうえで、自分と同じ年齢（16歳）になったディジーの立場でマキノン氏に手紙の返事を書く課題。
グループ編成
ジグソー活動 : 3人×2グループ+4人×4グループ エキスパート活動 : 3人×2グループ+4人×4グループ クロストーク : 3人×2グループ+4人×4グループ

学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
1分	導入 今時の学習内容の確認を行う	
18分	エキスパート活動 A, B, C の各グループで英文を読み、内容の読み取りのための問いに答えようでそれぞれ自分の資料に欠けている情報(2点)に関して推測させることで、他の資料との情報の統合の素地を作る。	語句等知識レベルの問題で行き詰まっている場合はその知識を速やかに与える(英文には語句に関する註を付けておく)。また、主に考えてもらいたい点が話し合いの中心になるように適宜軌道修正を行う。
15分	ジグソー活動 絵課題(絵を並べかえる等の課題)への取り組みを通して、読んだ英文の内容を報告しあい、ストーリー全体を把握する。 絵が正しく並べられた時点で、一枚一枚の絵にふさわしい説明文を選ばせる。これによってストーリー全体を場面ごとに確認させる。	1枚だけストーリーとは関係のない絵が入れられており、自信を持ってその絵を排除できるようになるまで考えさせ、議論を活性化させる。 説明文は英文で書かれている。
15分	クロストーク 各場面での登場人物の気持ちを考えさせて、ストーリーに感情を表す語句を入れる課題に取り組みさせる。全体で発表させ、解釈に相違がある場合はその理由を説明させる。	場面によっては複数の解釈が成り立つことがあり、答えが1つに絞れないことはあるが、文脈に即していない解釈は間違いと考えるように指示する。このストーリーが実話であることを初めて伝えることで、教材の新鮮さを再度呼び起こす。
1分	まとめ 次時の学習内容を確認する。 (マキノン氏の手紙を読んだうえで、自分と同じ年齢(16歳)になったディジーの立場でマキノン氏に手紙の返事を書く課題)	今時の教材を次時に持参することを指示する。

備考(クラスの様子、事前に予想される指導上の課題など)

時間が不足する恐れがある。取り組みを加速する工夫として、積極的な取り組みに対して平常点を与えることとする。